

# 学道一如

発行 高校  
小樽双葉新聞部  
2026年5月22日  
第13号

同好会から部に昇格した写真部が春季大会で上位作品に3名が選ばれ、存在感を示している。

## 写真部 新たな門出 春季大会で成果見せる



春季大会には上位10位までの作品が発表され、本校から3名が選ばれた。

1位(同率で3作品のうちの2作品) 探検隊 3・4 岸本芽依

昨年8月に村上仁卓さんのぶどう園でぶどうの収穫の様子を撮影した。母親と男の子が収穫した籠をのぞき込む様子を焦点を当て、周囲はぼかした。

「魅惑の舞」 3・2 本間香音

バレエを習っている池田彩愛さんが制服姿で光の中を回転しているところを撮影した。髪の毛やスカートがなびく瞬間を連写し、200枚程撮った。池田さんは100回回転したらし

## 硬式テニス 支部大会 男子S野村くん、 女子S佐藤さん優勝



2-2 佐藤由唯 1-2 野村優斗  
2-1 大塩あやの 1-4 東海林春翔

硬式テニス高体連支部大会で女子シングルス、佐藤由唯さんが優勝、大塩あやのさんが2位に、男子シングルス、野村優斗くんが優勝した。女子ダブルスでは佐藤由唯・大塩あやの組が優勝、男子ダブルスで野村優斗・東海林春翔組が準優勝した。4名は函館で開かれる全道大会に出場する。

佐藤さんは「ダブルス決勝で潮陵に1ゲーム取られたので、0で押さえられるようにしたい。今年こそはインターハイ出場を」

10位 「背中越しの想い」 3・4 佐藤優羽  
できるだけ水平に撮ることで印象づけた。モデルは写真部員。

### 光と影を紡ぐ

写真部顧問 藤井 謙

昨秋の高文連閉幕後、私たちは冬の情景や春の桜を主題とした計画的な撮影を目指していました。しかしながら、心に描く情景を思うようにレンズに収めることができず、作品作りに悩みを抱えたまま、本春季大会を迎えることとなりました。

そのような中で、今年度より活動は大きな転換期を迎えました。「部」への昇格を果たし、新たにプロカメラマンを外部指導者として招くことが出来ました。これまでも顧問として努めずながら撮影技術の指導に努めてまいりましたが、採光の妙、被写体との間合い、緻密な設定

と気合いが入る。2月の全道大会では準優勝している。

野村くんは「初の高体連に緊張したが、いつも通り自分のプレーができた。得意はバックハンド。全道ベスト4入りを目指す。ダブルスでペアの東海林くんはバドミントン部員でテニスは初心者だが、「とても上手く、話し合いながらプレーを組み合わせ、楽しく試合できた。決勝はデュースにもつれ込む接戦だった」という。東海林くんは夜な夜なサーブを百本入れる自主練習をしていた。大塩さんは「サーブが入らなかったの練習し、シングルスは1回は勝ちたい」という。

や構図のバランスなど、より高度で専門的な知識を補う、恵まれた環境が整いました。外部指導を仰ぐにあたり、事前に明確な主題を設定することとし、四月の初回講習では「シングルエッセ写真の撮影指導」を受けました。夕暮れ時、低い角度から日差しが差し込む第二校舎の部室前廊下を舞台に撮影しました。プロの眼的確なご指導は見事で、部員たちはまたたく間に素晴らしい作品を創り上げ、

## ダンス同好会スタァト 水・金曜日カフェテリアで活動

ダンス同好会ができたとき、代表の樋口菜さん(1・4)に活動について聞いた。

確かな自信を得ました。この貴重な経験を糧とし、続く活動の中で部員たちが自らの感性で切り取った作品が、本春季大会において高く評価されました。顧問として、部の新たな活動スタイルが確立されつつあることを実感し、恵まれた環境の下、部員たちが今後どのような光の芸術を見せてくれるのか、その成長と飛躍に深い手応えを感じております。

同好会を作ろうと思った理由は、「北照高校にはダンス部があるので双葉にもあったら良いな」と思ったのと学校祭の時に盛り上げられると思ったから」と樋口さん。

部員は現在八人、全員一年生で、水曜日と金曜日にカフェテリアで活動している。将来的には更に仲間を集めて部に昇格させることを目標としている。

普段は、POP・ジャズ・ヒップホップなど様々なジャンルのダンスを踊っており、練習はストレッチから始め、曲を全員で聴き、立ち位置や振り付けを確認して、振り付けを覚え始めた曲に合わせて踊るといった内容だ。

一番盛り上がる瞬間は、経験者と未経験者の割合が半々なので、全員で一緒に曲に合わせて踊ることができた時だという。



他に3名のメンバーがいる